

【添付資料1】

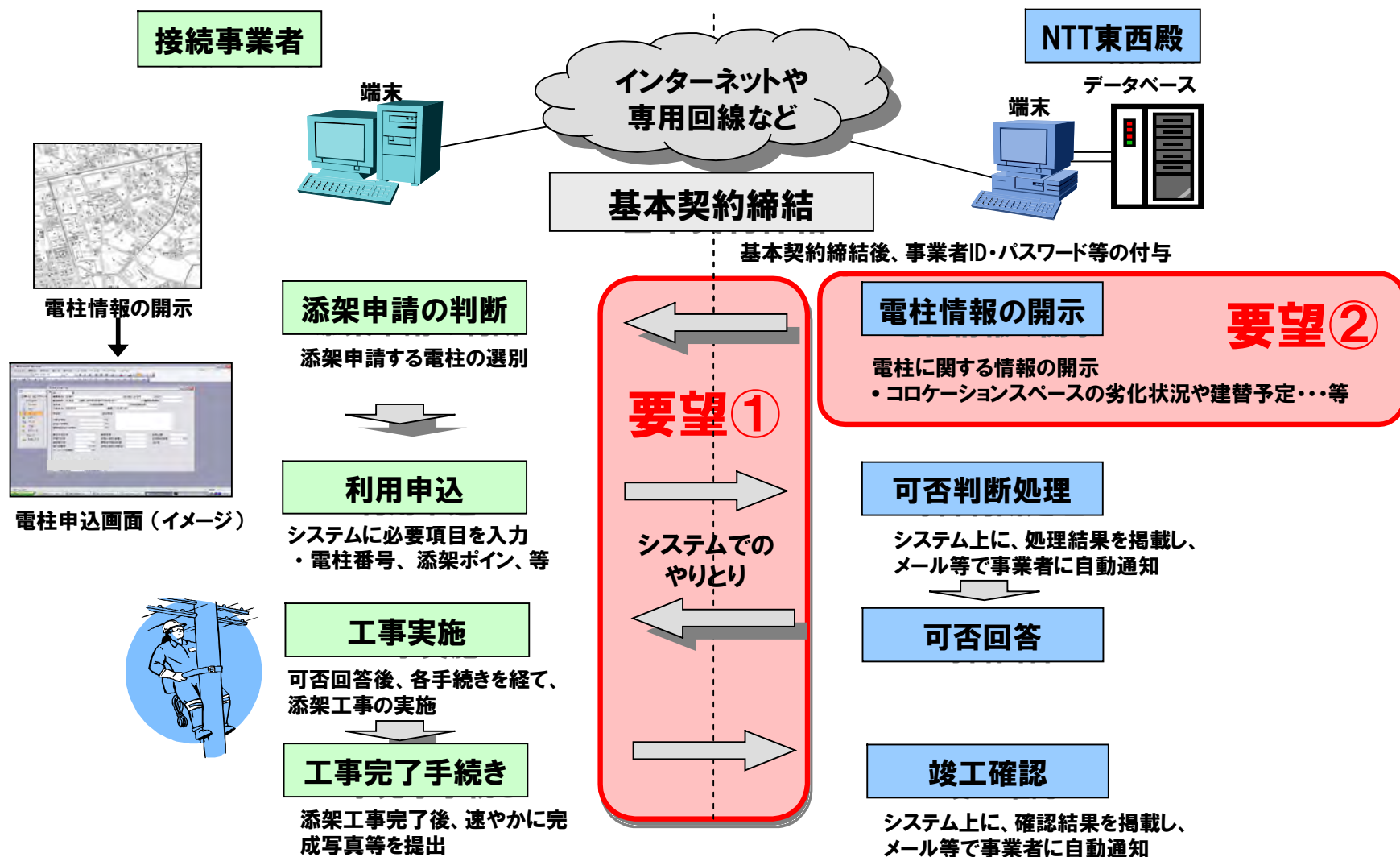
NTT東西殿と接続事業者との同等性確保に向けた見直し要望 (コロケーション等接続ルール関連)

(注)本資料は、総務省殿が本年7月11日まで実施していた意見募集「コロケーションルールの見直し等に係る措置報告に対する検証結果(案)」に対して、弊社が提出した意見書の添付資料になります。

要望事項:電柱添架申請手続きのシステム化を要望

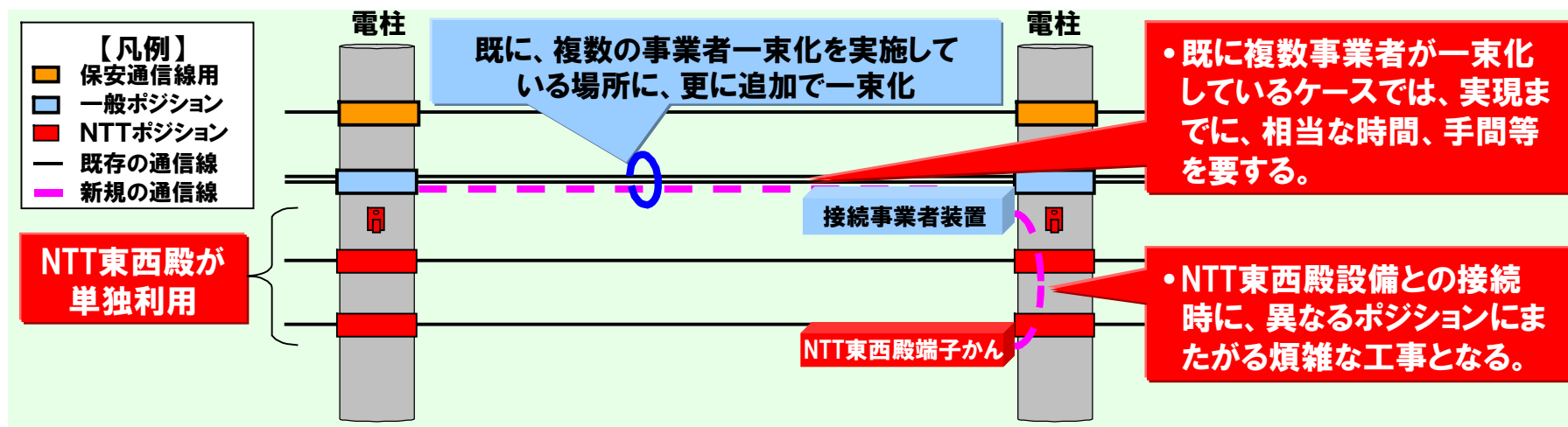
このシステム化に併せて、以下の対応も要望

- ① 紙ベースでの申込みや契約書以外の押印書類の提出を原則不要
- ② 電柱情報(不良電柱情報、建替計画等)を事前に開示

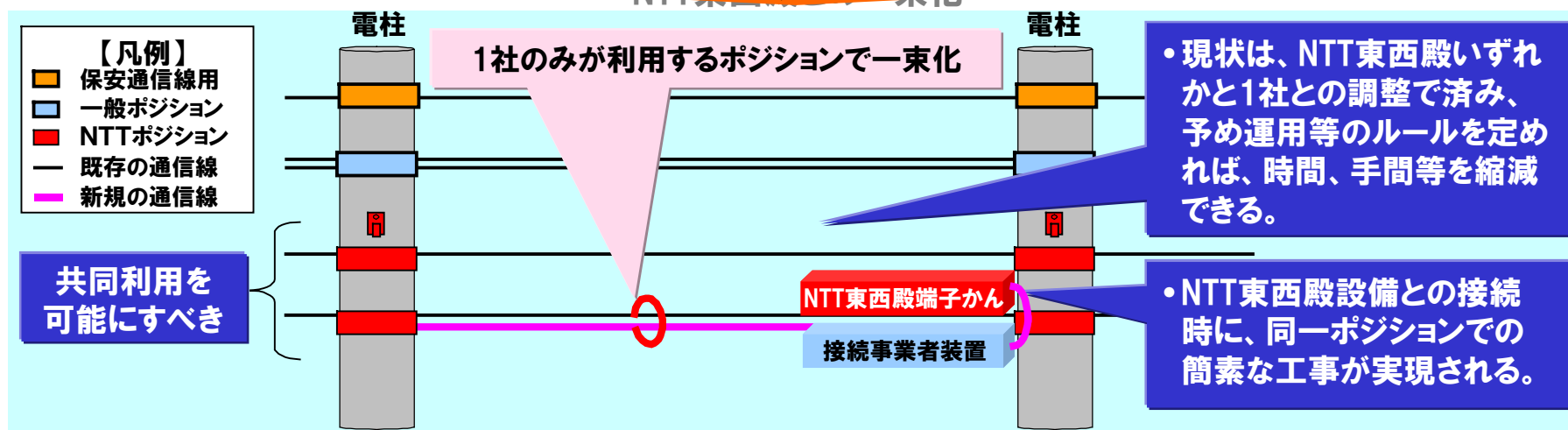


以下の主な理由により、NTT東西殿との一束化の実施が必要

- 一般ポジションは多くのケースで、複数の事業者との調整に時間等を要するため
- NTT東西殿の設備と同一のポジションで接続することで、柱上工事の簡素化等が図れるため

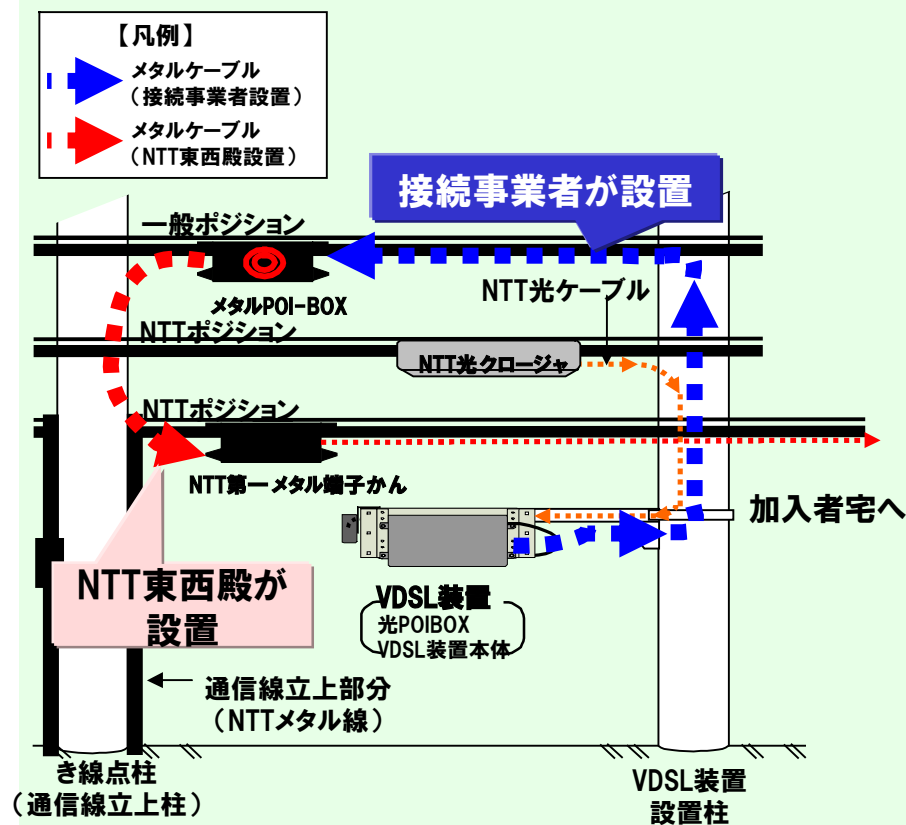


NTT東西殿との一束化

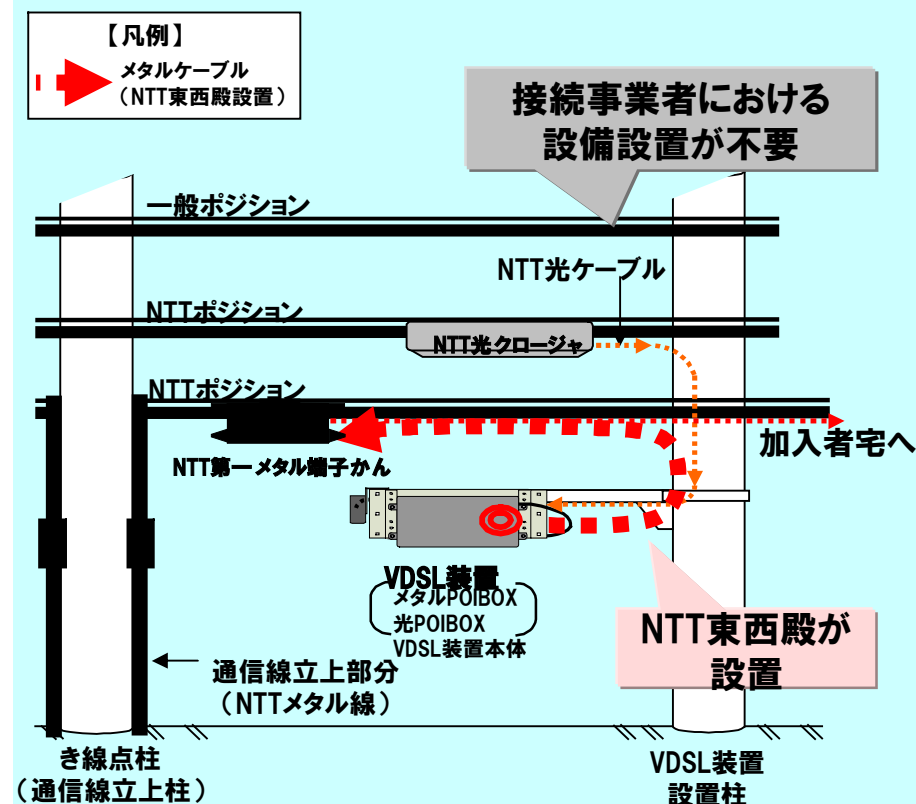


VDSL装置の接続においては、
一束化の問題を回避するために、隣接柱までのメタルPOIケーブル延伸が有効

現在の標準的な接続構成



メタルPOIケーブルの延伸



【主な課題】

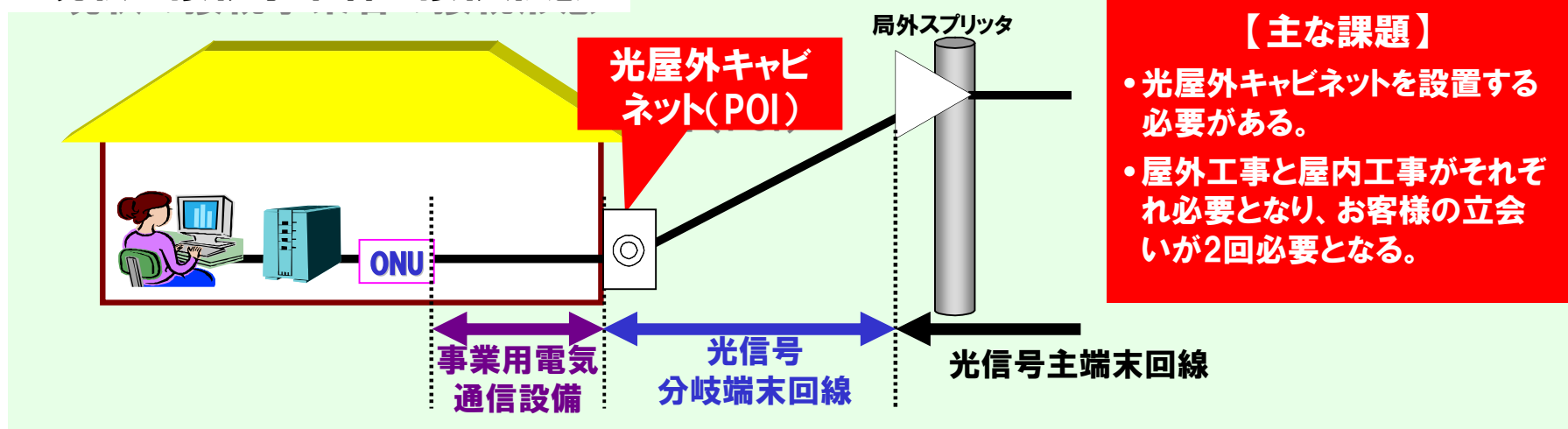
- 既に複数事業者が一束化している場合、相当な時間を要する
- 一般ポジションとNTTポジションにまたがった、煩雑な工事が発生する
- NTT東西殿との接続に複数の電柱を利用する

【主な改善点】

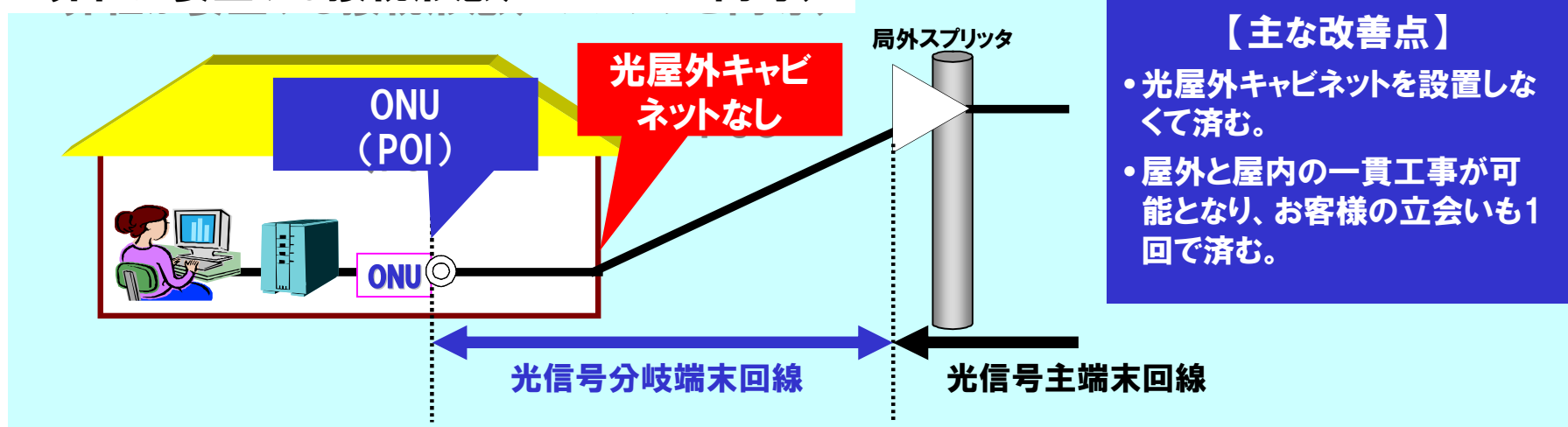
- 他の事業者との一束化が不要となり、一束化に係る課題が回避できる
- 一般ポジションとNTTポジションをまたがる工事が発生しない
- VDSL装置を設置する電柱のみの利用で済む

接続事業者が、NTT東西殿のBフレッツサービスと同等に、
光ファイバ回線の屋内配線工事を行うためのルール整備が必要

現状の接続事業者の接続形態



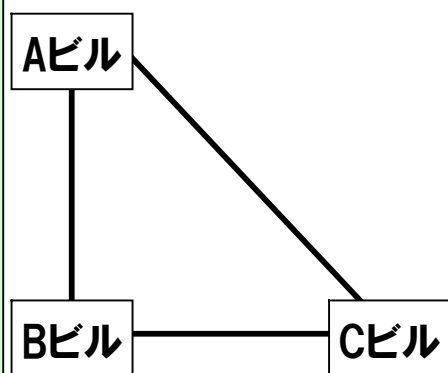
弊社が要望する接続形態(Bフレッツと同等)



中継ダークファイバの起点ビルと終点ビルの情報だけでは、実際の経路が把握できず、経路に関する追加情報が必要

【申込】

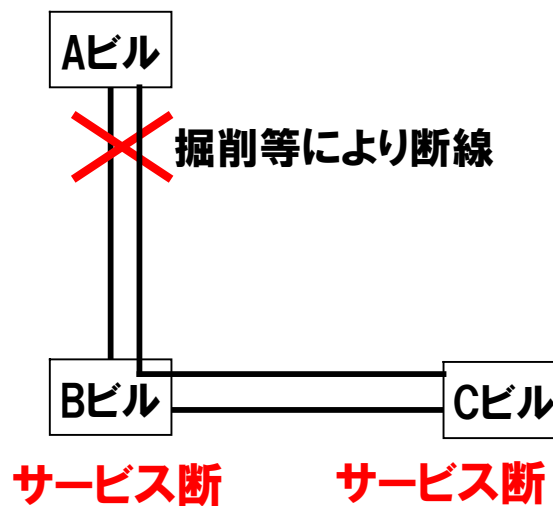
(イメージ)



申込 区間	起点 ビル	終点 ビル
1	A	B
2	B	C
3	A	C

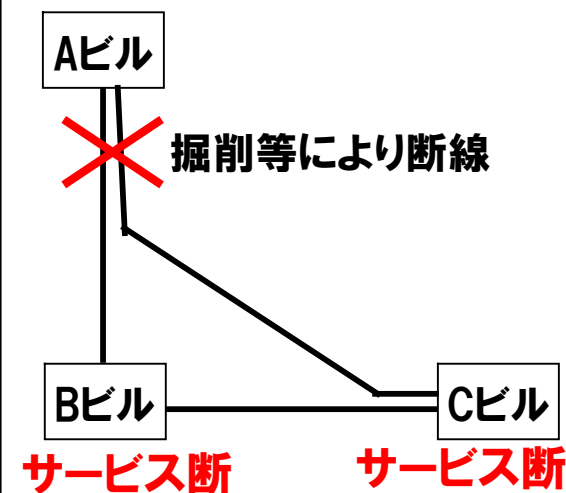
【実態例】

経由ビル名情報が必要な例



区間ACは実はBビルを経由しており、区間ABと同一の管路・ケーブルに収容されている。

重複区間・その距離の情報が必要な例



区間ACは実は途中まで区間ABと同一の管路・ケーブルに収容されている。

局舎コロケーションの有効利用に向けた取り組みを行なうべき


【現行】

接続事業者既設ラック

A社	B社	C社	D社
空き	空き	空き	空き
使用中	空き	空き	空き
使用中	空き	使用中	空き
使用中	使用中	使用中	使用中

E社用の局舎スペースが必要

↓
局舎スペースに空きがない
場合は設置不可

 E社
新たな
設置設備

【複数事業者による共用例】

接続事業者既設ラック

A社	B社	C社	D社
空き	新たな 設置設備	空き	空き
使用中	空き	空き	空き
使用中	空き	使用中	空き
使用中	使用中	使用中	使用中

B社とE社
で合意
E社
新たな
設置設備

E社用の局舎スペースは不要

↓
局舎スペースが空いてなくても、
条件が整えば設置可(B社ラック共用)

FTTRサービスの接続構成にあわせた
ドライカットパ接続料(下部区間)を新たに設定することが適当

FTTRサービスの接続構成図(契約回線型)

